上顎右側欠損部を Straumann coDiagnostiXを併用し インプラント治療を行った1症例

神奈川県 川崎市 吉村 慎一朗

患者情報

• Name : T.S.

• Age (生年月日): 67

• FE (初診日): 2015.6.15

C.C.(主訴): 咬めるようにして欲しい

- 歯科医院に来るのは約10年ぶり
- 治療回数を少なくして欲しい
- 審美的要素は細部はこだわらない
- 矯正治療は希望しない
- 歯科恐怖症
- 嘔吐反射強
- 頚椎ヘルニア

初診時口腔内写真





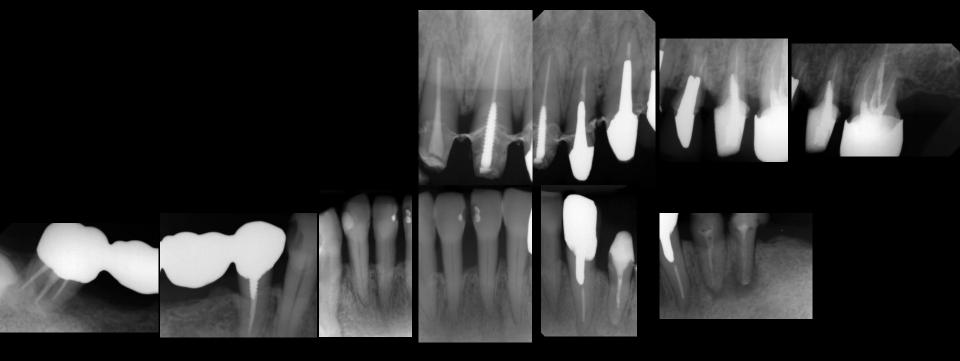






初診時オルソパントモグラフィ

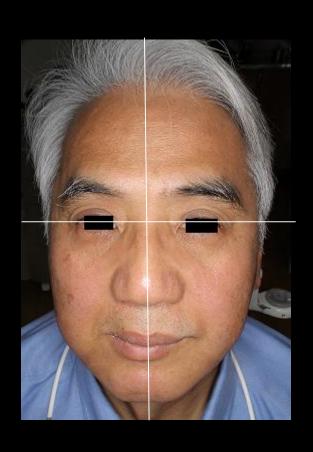




				434	648	434	3 <mark>3</mark> 3	333	333	344	4 33	333	3 <mark>34</mark>		
8	7	6	5	4	3	2	1	1	2	3	4	5	6	7	8
				435	644	43 3	433	333	433	434	4 <mark>3</mark> 3	334	434		
	544			334	222	<mark>2</mark> 22	<mark>3</mark> 23	434	333	333	443	333		333	
8	7	6	5	4	3	2	1	1	2	3	4	5	6	7	8
	444			323	322	322	324	433	333	433	333	333		334	

Probing depth(Bleeding point)

顔貌写真



下顎の右側偏位



Eラインは正常

問題点の抽出

- 右上・左下臼歯部の欠損による咀嚼障害
- 全顎的な歯周病の進行
- 多数の齲蝕歯・歯冠崩壊歯
- 不良根管治療による根尖部透過像の存在
- 全顎的な審美障害 不良補綴物の存在
- 長期間の右側咬合崩壊による顔貌の右側偏 位

治療計画

- 1. 歯周病検査及びスケーリングルートプレーニング
- 2. Hopeless歯牙の抜歯
- 3. 感染根管治療
- 4. 前歯部不良補綴物の除去及びプロビジョナルレストレーションの 装着
- 5. 欠損部へのインプラント埋入
- 6. 咬合器付着と咬合診査・診断用ワックスアップの作製
- 7. 臼歯部不良補綴物の除去及びプロビジョナルレストレーションの装着
- 8. 最終補綴物の装着
- 9. メンテナンス

治療計画

最終補綴プラン

 インプラント埋入による欠損補綴 両側6番までの短縮歯列 右上4番は骨量を鑑み⑤4③の インプラントブリッジ 6⑤③2

6532	
	6

• <u>オールセラミッククラウンによる</u>

不良補綴物の交換

1	123456
765	345



スケーリングルートプレーニング後の再評価

							322	233	322	222	223	222	234		
8	7	6	5	4	3	2	1	1	2	3	4	5	6	7	8
							222	222	322	322	223	333	234		
	<mark>34</mark> 3			222	212	222	211	222	222	222	233	323			
8	7	6	5	4	3	2	1	1	2	3	4	5	6	7	8
	223			223	212	222	<mark>3</mark> 23	322	222	322	323	333			

Probing depth(Bleeding point)

前歯部不良補綴物の除去 ファーストプロビジョナルレストレーションの装着



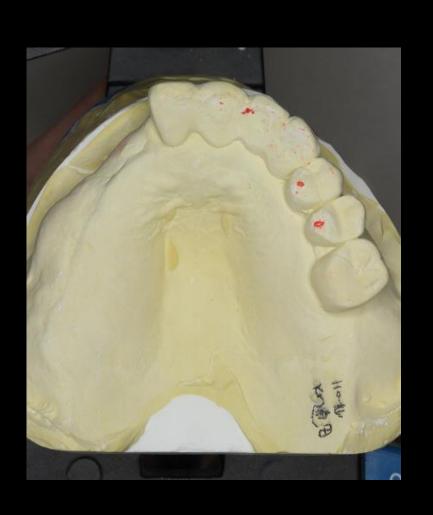
ファーストプロビジョナルレストレーション装着後 咬頭嵌合位



咬合診査



咬合診査





診断用ワックスアップ



診断用ワックスアップ



下顎右側側方運動時

下顎左側側方運動時



右上インプラント埋入の為の サージカルガイドの作製





右上インプラント埋入の為の サージカルガイドの作製









製作 : 協和デンタルラボラトリー様

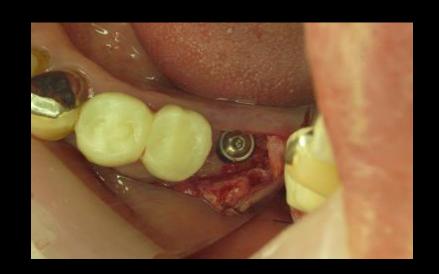
インプラント埋入

右上6532 相当部

左下6番 相当部



Strauman SLActive ガイデッドサージェリー

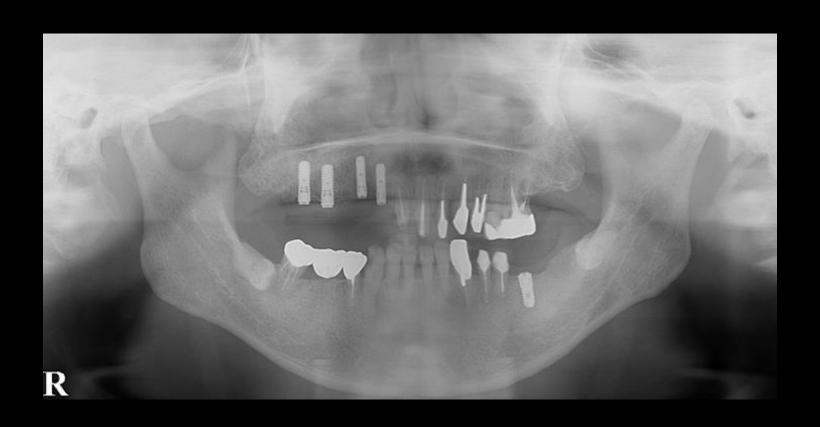


オステム ボーンレベル・インプラント

Strauman SLActive ガイデッドサージェリー



インプラント埋入後



初診時

プロビジョナルレストレーション 装着





プロビジョナルレストレーション装着後の スマイルライン



初診時

H28 1月





今後の治療方針

- 1.再度咬合診査を行い、臼歯部不良補綴物・現在装着されているプロビジョナルレストレーションの、ファイナルプロビジョナルレストレーションへの交換
- 2.右上3番歯頚ラインの一致
- 3.咬合の安定・顎関節の安定を確認後、<u>最終</u> 補綴物の装着
- 4.メンテナンス

考察

- 1. 事前のガイドシステムによるシミュレーションにより確実で正確な位置にインプラントを埋入することができた
- 2. 咬合器付着による咬合診査を行った ため、プロビジョナルレストレーション 装着直後から満足のいく咬合関係を 得ることができた
- 3. 術後の骨・歯肉の退縮により左右の 歯頚ラインの不一致が起こり、FGG などの歯肉移植が必要である





御清聴有難う御座いました